

■リーダーズ・ナウ [在学生・卒業生インタビュー]

分かりやすい 情報体系デザインを実践

堺市の情報サイト制作にチームで協力

「堺好きをどんどん作っていきたいと思い、関西大学総合情報学部堀研究室の学生さん方と協働してこのサイトを作成しました」——「堺市シティプロモーション情報サイト」のトップページには、このような堺市からのコメントが掲載されている。同サイトの制作に携わった学生は5人。彼らは総合情報学部の堀雅洋教授の下で学んだウェブ情報システムの技術と知識を応用し、実ユーザーに近い学生の感覚を生かしてサイト構築に貢献した。



さまざまな地域資源をアピールし、地域の知名度や好感度を上げ、地域そのものを全国に売り込む「シティプロモーション」が各地で活発になっている。2012年12月、大阪府堺市の公式サイトのリニューアルに合わせて公開された「堺市シティプロモーション情報サイト」も同市のシティプロモーション活動の1つ。堺の史跡、産業、観光スポット、体験施設など、堺の魅力を紹介したこのサイトの制作に、堀研究室の学部生3人、大学院生2人が協力し、同市の情報発信に貢献した。

堺市から堀教授を通じて、彼らに協力の相談が持ち込まれたのは2012年6月頃。当時の同市には観光情報サイトはあったが、情報の見つけにくさが課題だった。新しく制作するサイトでは、これらの課題を改善した情報を見つけやすいサイトを目指すことで合意して作業は始まった。



堺市の写真 ▲
堺市の情報の関連性を「カードソート」で整理する学生たち ▶



7月に行われた堺市との合同ワークショップでは、「千利休」「昆布」「刃物」など堺市の魅力を1枚ずつ名刺大のカードに書き出し、そのカードを並べて情報の関連性を整理するカードソートと呼ばれる作業に、堺市職員と学生で意見交換しながら取り組んだ。

「堺市が考える分類に対して、観光客などのユーザーと同じ私達の目線での分類をすり合わせて情報を整理しました」と振り返る



◎総合情報学部 堀雅洋研究室

- 梅景 晃平 さん(研究科2年次生)
- 北川 悠一 さん(研究科2年次生)
- 宗片 大輝 さん(4年次生)
- 西 悠之 さん(4年次生)
- 沖野 仁美 さん(4年次生)



返るのは、北川悠一さん。

この作業を経て、堺の魅力の時系列に、古代・中世・近世・現代の4つの時代に分け、古代・中世の繁栄を象徴する歴史魅力と現在に受け継がれた活力とのつながりが垣間見えるような情報分類の枠組みに整理することが決まった。この決定を受け、サイトの企画デザインを大学院生2人が中心となってまとめると、今度は学部生3人が中心になってサイトのソースコードを作成するコーディング作業に取りかかった。

作業期間は約4ヶ月。授業や自分の研究と並行して取り組まなければならない時間的な厳しさを乗り越え、ユーザーの立場から考えた使いやすいサイトができあがった。ページデザインも、堺市の持つ歴史魅力を生かしたデザインにしたいという堺市の意向を踏まえて、学生が作成したものを採用。修正もほとんどなく、学生が作ったサイトがほぼそのままの形で公開されることになった。

「昔からサイトのデザインが好きでしたが、趣味とは違う大変さを感じました」(宗片大輝さん)「最新のソフトにも対応できるようにプログラミングをしました」(西悠之さん)「アクセシビリティを検証しましたが、規格について知らないことが多く勉強になりました」(沖野仁美さん)と現在4年次生となった学部生は、それぞれが担当した作業を通じて実践的な学習を体験できたと振り返る。

堀研究室では、ユーザーにとって分かりやすい情報体系(情報アーキテクチャ)のデザインなどを学んできた。今回のサイト制作は、その学習の成果をしっかりと発揮する機会となった。

「自分たちのスキルを、社会に生かすことができうれしいと全員が感じています。情報の伝え方だけでなく、対外的な議論の仕方なども学ぶことができました。情報の分かりやすさがこのサイトの一番の売り。多くの方に見ていただいて、堺市のプロモーションに役立てば」とリーダー役の梅景晃平さんは話した。